
《ツマリアンボール（スノーフィールドバレー）競技規則》

1. 競技の概要

ツマリアンボール（スノーフィールドバレー）は、バレーボール本来の楽しみを損なわずに、まったく新しい観点から3チーム同時に試合を行うレクリエーション的要素の高いスポーツとして、雪上で気軽にできるように考案したものである。

2. 競技規則

(1) 施設と用具

- ① コート
 - ・コートは円形で、その広さは半径6.00mとする。
- ② ネット（アンテナ）
 - ・ネットは、バドミントン用またはバレーボール協会制定ソフトバレーボール用ネットを使用する。ネットの高さは、2.00mとする。
 - ・アンテナは、バレーボール用アンテナ（高さ1.80m）を使用し、センター支柱にネット上端から1.00m上方に出るように取り付ける。
- ③ ボール（モルテン製ミニソフトバレーボール周囲63～65cm）
 - ・ボールは、日本バレーボール協会制定のソフトバレーボールとする。

(2) 競技者

- ① 競技者は、4名で行い6名以内とする。
- ② 競技者は、指定されたところに一連のナンバーをつける。

(3) 試合の進行

- ① トス
 - ・各チームの主将は、トスにより、トスに勝った順にサービスコートを選択する。
- ② タイムアウト
 - ・各チームは、競技中に1回のタイムアウト（30秒以内）を要求することができる。ただし、試合残り時間が30秒を経過した以降は、要求することはできない。
 - ・タイムアウト中は、試合時間を止める。
- ③ 選手交代
 - ・選手の交代は、一試合4回以内とする。
 - ・試合残り時間が30秒を経過した以降の交代はできない。
 - ・交代中は、試合時間を止めない。
- ④ 試合時間
 - ・1試合15分とする。なお、試合時間が経過した時点でラリーが続いている場合は、そのラリーが終了した時点で試合終了とする。

(4) 得点および勝敗

- ・15点からのロスポイント制とし、いずれかのチームが0点になったときに勝敗を決定する。
- ・いずれかのチームが0点になる前に、試合時間が終了した場合は、終了時点で得点で勝敗を決定する。
- ・同点の場合は、各チーム代表者のジャンケンにより勝敗を決定する。

(5) 審判団の構成および権限

- ・審判団の構成および権限については、下記に定めるほかは原則として現行の9人制バレーボール競技規則に準じる。

① 構成

- ・試合のための審判団は、次の役員によって構成する。
主審1人、副審2人（ラインズマン・記録員を兼ねる）、点示員1人・計時係1人（参加チームから選出する）。

② 位置

- ・主審は、ネットの一方の端に置かれた審判台上で、コートと同時に観察できる場所に位置する。
- ・副審は、主審の反対側に位置し、主審を補佐する。
- ・記録員は、主審の反対側にある記録席に位置する。

③ 権限

- ・主審は、試合の準備段階から終了まで、その試合運営における最高責任者であり、規則に明示されていない全ての問題に関して決定を下す権限を持つ。
- ・副審は、主審を補佐し、主審の陰になるような反則で、権限以外の反則については、吹笛せずに主審に合図し、主審の反対側のエンドラインに関する制定、競技者がネットに触れたときは吹笛し、誤りを発見したときは直ちに主審または副審に合図しなければならない。

(6) プレー中の動作と反則

① サービス

- ・サービスは、エンドライン後方のサービスエリアから1回とし、時計回りとする。チーム内のサーブ順は、ゼッケンナンバー順とする。

② 以下のプレーがあったときは反則となり、そのチームは減点となる。

<オーバータイム>

- ・ネットを越えて相手コートに打ち返すために、ボールへの接触回数がブロックに加えて最大限3回を超えたとき。

<ネットタッチ>

- ・インタープレー中にネットに触れたとき。但し、相手側の打球により膨らんだネットに触れたときはネットタッチにならない。

<ドリブル>

- ・明らかに同一競技者が、二度続けてボールに触れたとき。但し、ブロック後、またはネットに接触後、同一の競技者がボールに触れてもドリブルとならない。

<インターフェア>

- ・ネットの上から相手のプレーを妨害したとき。

<サービスフォルト>

- ・サービスボールがネットに触れるか、相手コートの競技者に触れずに相手コートの外に落ちたとき。

<アンテナボール>

- ・アンテナにボールが触れたとき。

<ネット下の通過ボール>

- ・ネットの下を通過したボールは、アウト以外、通過したコートのチームの減点とする。

③ サービス以外は、足を使用してもよいものとする。